

## 外部評価意見への対応方針

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
第1回区政会議				
1	H30.7	【区政会議】 区政会議を意見聴取の場としているのであれば、2回の開催回数では少ないのではないかと。(中野佳弘委員)	平成30年度から、より活発な意見交換を可能とし、多くの委員のご意見をいただけるよう、班ごとの審議を基本とする分科会形式の運営に変更するとともに、委員と区職員がざくばらんに意見交換をするラウンドテーブルを開催しました。また、より専門的な意見交換を行うことにより、効果的かつ効率的な区政会議の議論に資するため、地域福祉ビジョン検討部会及び路上喫煙対策部会を開催しています。	①
2	H30.7	【区政会議】 区政会議のメンバーには地域活動をされている方が入っているが、全ての地域からは来ていないようだ。来年度からは全ての地域の人が揃うよう、地域に働きかけて選出してほしい。(林委員)	区政会議委員34名のうち、地域団体から推薦を受けた委員は22名で、各地域活動協議会からも地域の実情に応じて7名を推薦していただきました。平成31年10月の次回委員改選では、未推薦の地域活動協議会にも地域の実情に応じて可能な場合は推薦していただけるよう働きかけてまいります。	②
3	H30.7	【区政会議】 区政会議における安全・安心に関する議題については、警察や消防に参加していただいているかどうか。(萱野委員)	区と警察・消防とは日常から密接に連携しており、警察・消防に伝える必要がある区政会議で出たご意見は情報共有しているため、現時点で区政会議への警察・消防の参加は必ずしも必要ではないかと思えます。今後、安全・安心に関してより専門的な意見交換が必要な喫緊の課題が出てきた場合は、関係者として出席を求めるところを検討します。	③
4	H30.7	【情報発信】 ・区民のスマートフォン利用者は多いと思うので、情報発信のツールとしてもっと活用してはどうか。行政にとっては経費削減に繋がりが、区民は情報を入手しやすくなるなどメリットが考えられる。(中野浩志委員) ・LINE@による広報を行っていることを、もっと周知すべき。(竹田委員)	・天王寺区公式SNSとして、区からのお知らせやイベント情報をタイムリーに発信する「LINE@」、様々な行政情報や地域での活動の情報などを写真等とともに発信する「Facebook」、気象警報や緊急情報を発信する「Twitter」、動画を掲載している「YouTube」があり、引き続き、効果的な情報発信に努めてまいります。 ・LINE@を含めた天王寺区公式SNSの周知チラシを、区民2000名を対象に郵送で行う区民モニターアンケート調査に同封するなど、お友達登録を増やす取組みを進めます。	①
5	H30.7	【情報発信】 区の広報板を目立つ場所に設置してほしい。(中谷委員)	区の広報板につきましては、民有地を含む設置場所(76か所)の土地所有者のご協力のもと、設置させていただいており、広報板の場所を動かすことは困難ですが、引き続き、広報板の有効活用に努めてまいります。	④
6	H30.7	【情報発信(区内施設の活用)】 クレオ大阪中央は、図書館やホール等施設が充実している。もっと活用してもらえよう施設についての周知を強化してはどうか。また、区の事業でも利用すれば良いと思う。(中野佳弘委員)	クレオ大阪中央からのイベント情報については、区の広報紙において掲載するとともに、区役所1階の情報コーナーでもチラシ等を配架しております。区の事業での利用については、区役所に講堂等の利用できる施設があることから、費用対効果を検討しつつ、事業規模に応じて利用を検討してまいります。	①
7	H30.7	【職員力の向上】 区職員が民間企業へ派遣されることで、事業者が行う企業努力等が学べるのではないかと。(中野佳弘委員)	民間企業への職員派遣については、以前、市の事業として実施し一定の成果も出ていましたが、市への社会人採用が一定進んだことから、一旦見直しということで現在では実施されていません。職員人材開発センターに確認したところ今後の実施については未定とのことですが、再度実施されるということであれば、職員派遣について検討してまいります。	③
8	H30.7	【職員力の向上】 区役所の窓口で“たらい回し”が起こらないよう、担当課以外の業務の知識を習得してほしい。また、職員間での情報共有は大切だと思う。(中山委員)	他課の業務を知ることをメインに毎年職員塾を開催しており、今後も継続して実施していきたいと考えています。職員間での必要な情報共有については、メールや各課の朝会等の場を活用し取り組んでまいります。	①
9	H30.7	【「日本一の文教『都市』」をめざした取組】 「日本一の文教『都市』」を目指すなら、どのような取組みをすべきか区民に問い反映させるべきである。(平嶋委員)	当区としては、区内に学校園など教育関係機関が集積していることから、関係機関と連携し優れた教育・人材育成の機会を区民に提供できるよう「日本一の文教『都市』」をめざすことを経営課題に掲げ、取組を進めています。「日本一の文教『都市』」をめざした取組について、区政会議など会議の場のほか、つなげ隊や区民モニターなど様々な機会をとらえて区民のご意見を把握し、施策への反映に努めてまいります。	②
10	H30.7	【文教都市としての見える化】 天王寺区は、「文教都市」として高校が多く、学校や学生が地域と連携・協力して取り組んでいる事例が多くある。それらを、区役所が取り上げ、「見える化」していく必要がある。(平嶋委員)	これまでも区内高校の特色ある取組を区広報紙で特集してきた例はありますが、今後とも区内小学校や生徒が区事業や地域と連携・協力して取り組んでいる事例を把握したうえで、区の広報ツールを活用して区民の方々にお知らせし、取組の「見える化」を図ってまいります。	①

11	H30.7	【人材育成】 ジュニアクラブはいい取組みでもっと多くの子どもに参加してほしいが、一方グローバル人材育成事業は多くの参加申込みがあるものの、その事業だけの参加になり、事業実施後は区役所や地域の関係も切れてしまう。区が行う人材育成の取組みは、ジュニアクラブ会員になったうえで、参加できるようにしてはどうか。(出水委員)	ジュニアクラブ事業は、青少年の健全育成及び将来の地域活動の担い手育成という観点から地域の方々の協力を得て、年5回程度ボランティア活動や地域の理解を深める活動を行っています。一方、グローバル人材育成事業は将来意欲的に海外に挑戦し活躍する人材を育成することを目的として実施しています。ジュニアクラブ事業は、活動によっては受入先等の事情から参加できる人数に自ずと制約があることや、両事業は事業趣旨が異なること、また様々な区民のニーズに柔軟に応える必要もあることから、参加者の募集にあたっては事業ごとに募集を行ってまいりたく考えております。	④
12	H30.7	【人材育成】 単に事業に参加してもらっただけでなく、海外留学などその後の人材育成に大きな影響を与える事業を実施すべきではないか。(井川委員)	グローバル人材育成事業は将来意欲的に海外に挑戦し活躍する人材を育成することを目的として実施しています。直接留学を行う事業として実施することも考えられますが、少人数に多くの投資を行う事業にならざるを得ないことや、本市中学生を対象に市教委が関わる海外派遣の事業もあること、現状小学生を中心に多数の参加申込があることから、本事業についてはより多くの子どもが参加できる事業となるよう工夫しながら実施してまいります。	④
13	H30.7	【人材育成】 文教都市として学力の向上を目指していくのはいいが、最近の子どもたちは文化が弱い。例えばミュージカルの催しなどをするなど、文化面にも力を入れるべき。(平嶋委員)	学力向上のみならず文化面を含め多様な機会を提供していくことが人材育成として必要と考えます。各校でも文化体験の取組みは行っておりますが、当区としても学校と連携して小学校音楽交流会や中学校吹奏楽部・合唱部によるバリアフリーコンサートの活動を支援しています。今後とも学校のご意見もお聞きしながら多様な教育機会の提供に努めてまいります。	①
14	H30.7	【個別指導 天王寺塾】 個別指導 天王寺塾は中学生が対象だが、学習習慣を身につける観点からは中学生からでは遅く、対象を小学生にも拡大すべき。(井川委員)	学習習慣の定着には小さいころからの生活習慣が大切と考えます。現在塾代助成を活用した取組みは本市で中学生を対象としていることから、本事業は中学生を対象としておりますが、ご意見は市の塾代助成担当部局へもお伝えしてまいります。また、区としても放課後等に小学校で開催され多くの児童が参加する児童いきいき放課後事業の場で学習習慣が身につくような取組みを受託事業者に求めてまいります。	④
15	H30.7	【地域社会による人材育成】 子どもたちを高齢者の方が見守り育てていくことで、その子どもたちが愛情を感じて、また自分たちが大人になった時に地域の子どもの見守り育てていくことになる。天王寺区には多くの世代、いろんな生活環境を持った子どもたちがおり、互いに支えあう社会づくりが重要である。(頓名委員)	ご意見のとおり、世代を超えてお互いに支えあう社会づくりは重要と考えます。区としても、地域で子どもたちの健全育成に取り組む青少年指導員の活動をサポートするとともに、ジュニアクラブ活動において世代間交流のプログラムを実施するなど、互いに支えあう社会づくりに資する取組みの実施に努めてまいります。	①
16	H30.7	【人材育成(情報発信)】 子どもを対象としたいろいろな企画や事業に、本当に来てほしい人が参加できているのか。(必要としている情報が必要な人に伝わっているのか。)(井川委員)	子どもを対象とした事業を実施する際は、区内小中学校にチラシ配布を依頼するほか、広報紙や区掲示板等も活用し、周知を図っています。また、30年度は、ひとり親家庭等サポートブック交付の機会に、個別指導天王寺塾やこどもの居場所の案内も行ったところです。今後とも、必要な情報が必要な人に伝わるよう留意して事業の周知に取り組んでまいります。	①
17	H30.7	【子育て支援(情報発信)】 ・子育て情報が必要な人に伝わっていない。虐待などの相談窓口をはじめ各種相談事業などを実施しているといった区役所の情報をもっとPRすべきである。(辻委員) ・子育てサークル等をやっているが、本当に手を差し伸べたい人に来てもらえない。どういうふうにしたら来てもらえるか。いい取組を地域でしているのに、本当に必要としている人に参加してもらえない。もっと情報を発信していかないといけない。(一本松委員)	広報紙への情報掲載をはじめとし、子育て情報アプリによる情報配信、子育て情報博覧会の開催などに引き続き取り組むとともに子育て情報の出張相談を行うなどさらなる広報の充実に取り組んでいます。	①
18	H30.7	【保育の充実】 待機児童が0になったが、今後は保育内容の充実と保育士の充実(人数・質とも)に取り組んでいくことが大事である。(山崎委員)	保育内容及び保育士の充実については、こども青少年局への働きかけを継続的に行い、また、保育士募集の広報に協力するなど充実に向けて取り組んでまいります。	⑤
19	H30.7	【独居高齢者等見守り】 見守りサポーターに小さい子どもとその親がついて行けば、話がはずむのではないか。(三宅委員)	見守りサポーターは、地域住民を中心としたボランティアが独居高齢者等を家庭訪問し、医療・介護等の課題への早期発見・早期対応を行っています。世代を超えた多くの区民の皆さまが、こうした取組みに関心を持ち、ご理解いただけるよう、引き続き、周知・啓発を行ってまいります。	③
20	H30.7	【独居高齢者等見守り】 個人情報の問題はあるが、役所で持っている独居高齢者の情報を活用してもらいたい。(江畑委員)	独居高齢者等見守りサポーター制度において、75歳以上の独居高齢者等で見守りを希望され、情報提供の同意をされた方の個人情報については、見守りサポーターにお伝えし、日頃の見守り活動に活用しています。	①

21	H30.7	【要援護者見守り】 要支援者名簿への登載に同意して見守りを希望された方(平成29年度450名)とのつながりは貴重なので、その方達の意見を聴くと良い。(三宅委員)	要援護者の見守りネットワーク強化事業において、同意確認のあった方の要援護者名簿を地域の見守り活動を行う団体等(地域活動協議会、民生委員等)に提供し、日頃からの声かけや自宅訪問、災害時の避難支援など見守り活動につなげています。	①
22	H30.7	【見守り】 見守りの報告を役所にしなくてもいいと聞いたことがあるが、報告は必要だと思う。(上戸委員)	独居高齢者等見守りサポーターについては、定期的な訪問などの見守り活動記録を見守り相談室(事業受託者)を通じて、区に報告してもらっています。また、要援護者名簿についても、見守り活動を通じて、気づいたことや気になることがあれば、報告してもらおうことになっています。	①
23	H30.7	【高齢者】 町会と連携しないと、高齢者の状況把握がより詳しくできないのではないか。(菊山委員)	要援護者の見守りネットワーク強化事業において、同意確認のあった方の要援護者名簿を地域の見守り活動を行う団体である連合振興町会等に提供し、日頃からの声かけや自宅訪問、災害時の避難支援など見守り活動につなげています。	①
24	H30.7	【高齢者】 地域資源を戦略的に活かしていく必要がある。取組は良いが、このペースで急速な高齢化に追いついて行けるのか。(松下尚生委員)	急速な高齢化が進む中、生活支援体制整備事業において、高齢者の生活支援ニーズを把握し、ボランティア等の創出や生活支援の担い手となるさまざまな関係機関や団体などの地域資源と連携し、生活支援サービスの充実に向けた取組みを進めています。	①
25	H30.7	【高齢者】 ・高齢者施設がもっとあったら良い。(三浦委員) ・特別養護老人ホームが少ないので、区内の土地活用を考えていただきたい。(菊山委員)	特別養護老人ホームなどの高齢者福祉施設については、「市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」に基づき、市内全域での整備目標を定め、整備を図っております。なかでも特別養護老人ホーム整備事業者の募集にあたっては、区ごとの施設の偏在が過大とならないよう天王寺区など施設の少ない区に整備することを優先した公募も行っています。	①
26	H30.7	【いきいき百歳体操】 ・いきいき百歳体操の拠点が3カ所では少ない。家の近くに小さな拠点でもあれば行きやすい。(菊山委員) ・大阪市スポーツ推進委員との連携がとれていないのではないか。(片岡委員)	・「いきいき百歳体操」は、介護予防に効果があり、住民主体の通いの場として、住民自らが、継続的に通いやすい自らの地域で拠点となる場を設定し実施していただく事業です。こうした住民の機運を醸成するため、様々な場を活用しながら周知を行うなど、必要な支援を行います。 ・地域住民が大阪市スポーツ推進委員との連携を図る意向であることを確認した際は、必要な支援を行います。	⑤
27	H30.7	【健康】 昼間がん検診に行けない人のために、土日祝や夜にがん検診を受けられるようにすべき。(菊山委員)	・がん検診は、天王寺区保健福祉センター分館(上汐公園横)で年間12回実施しています。それ以外にも、区内の取り扱い医療機関(80カ所)でも同じ検査を同額(胃がんを除く)で受診できます。 ・区で実施する12回のうち、土日祝日の日中に6回、平日の夜間に1回、平日の日中に5回、開催しています。 ・より多くの方に受診いただけるような対策を検討してまいります。	①
28	H30.7	【健康】 高齢者も大事だが、健康分野は若年層にも目を向けるべき。(松下尚生委員)	・健康に関する取り組みは、乳幼児から高齢者まで、幅広い年齢層の方を対象に実施しています。 ・がん検診では、育児中の方が受診しやすいように、事前申請により、保育ボランティアを依頼するなど、受診しやすい環境づくりに取り組んでおり、引き続き多くの区民の方にご利用いただけるよう検討してまいります。	①
29	H30.7	【防災】 出前講座を実施する際に、地域と住民をつなぐ観点から、民生委員など地域で活動している人にも声をかけていただきたい。(田中委員)	地域等で出前講座を実施する際には、可能な範囲で民生委員をはじめ地域で活動している皆様のご紹介の機会を設けるよう、主催者と調整してまいります。	①
30	H30.7	【防災】 上汐駐車場(地下駐車場)や四天王寺を災害時の一時避難場所にするにはできないか。(小野委員、萱野委員)	一時避難場所としては、災害時避難所である学校等の校庭など46ヶ所を指定しているほか、広いスペースをお持ちのお寺を中心に現在10寺院と協定を締結しています。上汐駐車場や四天王寺など、一時避難場所の拡充に向けて協議を進めています。	①
31	H30.7	【防災】 ・災害時に自身が何をすればよいのか、災害グッズにどういったものがあるのかわかるようにしてほしい。(原田委員) ・災害時の緊急避難路は、車は通れないが人は通れることはあまり知られていない。その役割と実際の経路をマップなどを用いてわかりやすく知らせるべき。(松下正克委員) ・災害時避難所・一時避難場所・広域避難場所の役割や災害発生時の職員の参集体制についてわかりやすく知らせるべき。(松下正克委員)	避難所に関する情報ははじめ、区民の皆さんにぜひ知っていただき、自助・共助の備えに役立てていただきたい情報については、区広報紙やHPを活用して積極的な周知・啓発に取り組んでまいります。	①

32	H30.7	【防災】 地域の防災マップについて、配っているにもかかわらず知られていない。自分の避難場所が具体的にわかるよう、わかりやすく知らせてほしい。(田中委員、林委員、中谷委員)	・それぞれの地域の避難場所については、出前講座などの際に積極的に周知・啓発を図ります。また、平成27～29年度にかけて全地域で全戸配付した地域別防災計画概要版にて紹介していますので、ぜひご参照ください。 ・併せて、区の防災マップについて、広報紙8月号に掲載しているほか、区ホームページにも掲載していますので、こちらもご参照ください。	①
33	H30.7	【防災(マンション)】 ・マンション管理組合同士がつながり合える場を作ることで、ノウハウの共有ができると思う。(中野佳弘委員) ・地域の連合単位で、マンション管理組合が参加する会議体があれば、自助・共助に役立つのではないかと(竹田委員) ・マンションのエレベーターの発災時の緊急停止への対応について、区役所から管理組合に対して指導できないものか。(原田委員)	・マンション同士のつながりづくりについて、毎年マンション防災に関する学習会を開催しており、参加者相互で防災に関する情報交換を行うとともに、できる限り同じ地域のマンションが同じ班となるよう編成を工夫し、近隣同士のつながりづくりに寄与するように努めています。今後もマンション防災学習会を通してマンション同士の交流を図ってまいります。 ・マンションのエレベーターの発災時の緊急停止への対応については、基本的に区には管理会社に対する指導権限はなく、各管理組合と管理会社(およびエレベータ管理会社)で協議すべき事項と考えますが、区としても、マンションで開催する防災出前講座などの際には管理会社の方にもできる限り同席を求め、その際に検討を要請してまいります。	①
34	H30.7	【安全・安心】 安全・安心は高齢者から子どもまでいろんな年代の人々が校区全員で取り組むことであるから、全員参加できる仕組みを作っていたきたい。(小野委員)	防災訓練などの際には、できるだけ多様な世代の多くの方に参加していただけるよう、区広報紙や広報板などでの周知を積極的に行ってまいります。	①
35	H30.7	【空き家対策】 空き家の活用策として、区内の空き家をオフィスとして貸し出す等事業者を誘致してはどうか。(中野佳弘委員)	区窓口への相談事例では、多くは利活用に適さない危険かつ老朽化した家屋が多く、また、所有者・管理者等に利活用について提案しても反応がないのが実情です。現時点では事業者誘致を行う状況にはないと考えていますが、今後の状況に応じて事業者誘致を含めた利活用策についても検討してまいります。	③
36	H30.7	【シティ・プロモーション】 ・聖徳太子没後1400年の節目に向けて、四天王寺や天王寺七坂等周辺もクローズアップされる契機になる。天王寺区内に点在するまちの魅力を区内外に知ってもらう機会にしてほしい。(吉田委員) ・四天王寺は歴史ある史跡なので、区の魅力スポットとして発信してほしい。(竹田委員) ・四天王寺をつくった宮大工の技術・伝統を天王寺区から発信することで、大阪で初めての世界遺産認定を取れるよう、市・府・国にアピールしてほしい。(中野佳弘委員)	・30年度は、大阪・熊野街道歴史ウォークを実施するほか、小説『幻坂』の舞台・天王寺七坂のまち歩きや、歴史街道(難波大道、熊野街道)や天王寺ゆかりの文学に関するセミナーなども予定しています。聖徳太子没後1400年の契機に向けて、天王寺区の魅力がクローズアップされるよう地域住民・関係団体と協力しながら進めてまいります。 ・世界遺産登録については、行政からのアピールというより、地域の盛り上がり、皆様方の熱意が必要かと考えます。区役所としても地域の皆様の機運の盛り上がりがあるようであれば積極的に関与してまいります。	③
37	H30.7	【ガイドマップ】 ・中央区では、わがまちガイドナビのような区内の魅力をまとめたガイドマップを数種類作成している。天王寺区でも、こういったガイドマップを発行できないか。(中野佳弘委員) ・来年度、中央区のようなガイドマップの作成を検討してほしい。(竹田委員) ・外国人観光客の増加に伴い、てんしばにも多くの外国人の方が訪れる。外国人向けのガイドマップを作成し、てんしばで配布すれば、もっと外国人観光客がもっと広いエリアを見て回るなど、区内の活性化につながると思う。(吉田委員)	当区ではガイドマップを「上町台地周遊マップ」一つにまとめており、その充実に努めていきます。外国語版「上町台地周遊マップ」の作成につきましては、歴史等に詳しい専門的な翻訳手法が必要であり、何語のマップがどのくらいの部数必要かの検討も必要になると考えます。引き続き、極力少ない経費で大きな効果を生み出す努力をしつつ、民間の力もお借りしながら、効果的な方策の検討を進めてまいります。	③
38	H30.7	【吹奏楽フェスティバル】 吹奏楽フェスティバルは規模が大きいので、吹奏楽関係者のみならず、もっと沢山の方に来場してもらえるように広く情報発信をすれば良いと思う。(吉田委員)	今年度以降、費用対効果を考えながら、効果的な情報発信を実施してまいります。	①

## ※分類

- ①当年度(30年度)において対応 ②元年度運営方針に反映または元年度に対応予定  
③元年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可  
⑤その他

## 外部評価意見への対応方針

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
第2回区政会議				
1	H30.12	【区政会議】 区政会議は分科会形式での実施や専門部会の設置で議論しやすい環境となってきた。もっと議論を深めるために、にぎわいに関する部会を設置してはどうか。(中野佳弘委員他1名)	区政会議委員の皆様が、にぎわいに関することも含めた区の施策に関して意見交換をしながら理解を深めていただく場として、任意参加のラウンドテーブルを平成31年2月に開催しました。	①
2	H30.12	【区政会議】 資料の事前送付時に、あらかじめ当日の運営方法や各委員の担当テーマ、主に使用する資料等を明確にしておくことで、より良い議論になるのではないかと。(玉井委員)	次回開催の区政会議(平成31年度第1回)から、ご意見を踏まえた改善を図ってまいります。	②
3	H30.12	【あなたの声をつなげ隊】 区内のイベントの会場で意見聴取を行う場合、会場内にポスターやパネルなど意見聴取するテーマについて、掲示を行うことで意見聴取だけでなく周知の効果も高まるのではないかと。(中山委員)	意見聴取を行う会場の管理者等のご理解が得られた場合、ポスター等の掲示を行ってまいります。なお、引き続き、事業案内チラシ等の配布も行い、事業の周知に努めてまいります。	①
4	H30.12	【情報発信】 ・情報を知ってほしいターゲットに応じて、発信する内容・構成を工夫し、どの広報媒体(広報紙、HP、SNSなど)が適切か選択して、効果的に情報発信するべき。(玉井委員) ・広報媒体のフェイスブック、ツイッター等において、区によって流れてくる情報が違う。区役所からの地域情報についてSNSの発信を上手に活用してほしい。(出水委員)	区民に広く知っていただきたい情報は区広報紙及び区HPに掲載する一方、区公式SNSでは区からのお知らせやイベント情報をタイムリーに発信する「LINE@」、様々な行政情報や地域での活動の情報などを写真等とともに発信する「Facebook」、気象警報や緊急情報を発信する「Twitter」、動画を掲載している「YouTube」があり、引き続き、ターゲットに応じた効果的な情報発信に努めてまいります。	①
5	H30.12	【情報発信】 広報紙などで事業実施の宣伝等はあるが、それがどうであったなどの報告をしてほしい。地域の事業の結果などを回覧板等で。(平嶋委員)	・広報紙で事業実施結果を掲載する場合がありますが、紙面が限られているため、事業実施の宣伝をしたすべての事業の結果報告をすることは困難です。 ・回覧板は、区役所からではなく地域において回付いただいているところです。地域事業の結果などは、はぐみネット新聞などで広報をされている地域もあり、各地域の自主性を尊重したいと考えます。なお、「天王寺区の9つの地域活動協議会supported by天王寺区まちづくりセンター」のフェイスブックにおいて、実施事業の風景写真などを掲載しているものがあります。	⑤
6	H30.12	【人材育成】 ジュニアクラブの活動が年5回では足りない。活動そのものが見えない。もっと回数を増やしたり、それ以外に例えば増嵩しているインパウンドに対して観光ボランティアをしてみようなど、子どもの教育といった観点から子育て施策の更なる充実を求める。(平嶋委員)	・ジュニアクラブ事業は、青少年の健全育成及び将来の地域活動の担い手育成という観点から地域の方々の協力を得て、年5回程度ボランティア活動や地域の理解を深める活動を行っていますが、活動内容の企画調整に要する時間や、ジュニアクラブ会員が学校や地域などで他の活動も行っている状況、学校・地域行事、区事業との重複ができるだけ生じないよう留意して活動日を決定していること、またジュニアクラブの運営委員には事業実施の打合せも含め年10回の活動に参加要請していますが、委員の大半は他の地域活動にも精力的に関わっておられることも勘案すると現在の活動回数が適当と考えています。活動内容について、区HPやフェイスブックの掲載、ケーブルテレビでの発信など様々な機会をつづいて広く知っていただけるよう努めてまいります。 ・子どもの教育の観点からのボランティア活動について、学校からの要望に対し区でサポートできるものについては支援し、子どもに幅広い教育経験を積んでもらえるよう努めてまいります。	③
7	H30.12	【学校施設】 小中学校のトイレの洋式化、体育館の冷暖房設備の設置をお願いしたい。災害時の避難所となるので、冬は寒く、夏は暑い、和式トイレでは高齢者にとっては大変だと思う。(平嶋委員)	学校のトイレの洋式化については市教委において順次進めているところです。災害時の避難所でもある体育館の冷暖房設置の要望について、関係局に伝えてまいります。	⑤
8	H30.12	【人材育成】 地域でのボランティア活動もグローバル人材の育成も双方重要であるから、ジュニアクラブではボランティアだけ、グローバル人材育成では英語だけでなくならないよう、それぞれの事業でも双方の趣旨を含む幅広い取り組みを進めてほしい。(出水委員)	幅広い人材の育成は重要と考えており、ジュニアクラブ活動でもボランティア活動のほか、留学生と日本語で交流するグローバル社会の視点を踏まえた活動も行っております。またグローバル人材育成事業でも、英語のみならず日本語で多文化共生について学ぶプログラムも盛り込むよう留意しておりますが、今後とも幅広い人材の育成につながるよう、多様なプログラムの企画に努めてまいります。	①
9	H30.12	【子育て支援】 子育て支援サークルについて、就学前の子どもを持つ親が集まってイベントなどをして人数も増えてきているが、まだまだ知らない人が多く周知が必要だ。今後も周知をしてほしい。(頓名委員)	広報紙への情報掲載をはじめとし、子育て情報アプリによる情報配信、子育て愛あいフェスティバル、子育て情報博覧会でのブース設置など、周知に引き続き努めます。	①

10	H30.12	【子育て支援】 シングルマザー等支援が必要な方々に、情報が届いているか。何かフォローできる体制が必要ではないか。(福永委員、山崎委員)	現況届提出時にアンケートを実施し、ニーズ調査を行うとともにひとり親家庭等サポートブック、子どもの居場所、個別指導天王寺塾のチラシを配布するなどターゲットを絞った周知を続けることにより、必要な支援につなげてまいります。	①
11	H30.12	【見守り】 同意をした人への見守りだけでなく、もっと踏み込めないか。(上戸委員)	見守り相談室では、同意確認のあった方だけでなく、地域で、気になる人や孤立し困っている人に対して、訪問し、地域の見守り活動や福祉サービス等につなげています。	①
12	H30.12	【見守り】 いざという時にどうするか、イメージがなかなかできない。見守る人を増やしていけばいいのかなと思う。(三浦委員)	要援護者の見守りネットワーク強化事業において、同意確認のあった方の要援護者名簿を地域の見守り活動を行う地域団体等に提供し、災害時の避難支援など見守り活動につなげています。	①
13	H30.12	【見守り】 ・どこに相談したらいいのかが広報を強化するべき。目の不自由な方等への周知も気になる。(菊山委員) ・各種団体があるが、どこに相談したらいいかわからないので、窓口を一本化できないか。(菊山委員)	・各種相談は、民生委員、町会等を通じて、区や見守り相談室等の関係機関につながるしくみとなっております。 ・引き続き、見守り相談室のチラシやポスターの活用、広報紙の掲載などを通じて事業の周知を継続して行ってまいります。	①
14	H30.12	【見守り】 ・運営方針関連資料に具体性のある記載がないので、見守り結果を記載したらいいのではないか。(松下尚生委員) ・見守りの具体的なエピソードがあれば、必要性をもっと実感できる。(三宅委員)	見守りの利用者等へのアンケート結果を運営方針の策定に反映していますので、今後、アンケート結果を運営方針関連資料に記載することも検討いたします。	③
15	H30.12	【健康】 母親は、乳がん等、がん検診の必要性は知っている。周知も大事だが、検診中に託児ができるような方法があれば、もっと検診を受ける人は増えると思う。(三宅委員)	がん検診では、育児中の方が受診しやすいように、事前申請により、保育ボランティアを依頼することができます。このような受診しやすい環境づくりの取組も含め、引き続き、多くの区民の方にご利用いただけるよう周知してまいります。	①
16	H30.12	【防災】 公園に防災機能をもっと持たせていくことが必要ではないか。(高木委員)	・一部の公園には災害時の炊事に活用できる「かまどベンチ」や、断水時でも利用できるトイレ「マンホールトイレ」を整備しています。 ・これに加えて、区では平成29年度から31年度にかけて、公園等への避難者に対する対応として一時避難場所向けの備蓄物資の配備に取り組んでいます。	①
17	H30.12	【防災】 ・留学生などの定住している外国人に対して、災害時に避難できる場所を設置してわかるようにしておくべき。(松下正克委員) ・留学生が実際に通う学校などに、居住の実態などを聞きに行ってみてはどうか。(田中委員)	外国人に災害時の対応の基礎知識を身につけてもらうために、「やさしい日本語」でのお知らせを区HPに掲載しています。現時点では定住外国人向けに特化した災害時避難所はありませんが、今後、外国人向けの支援を行っている専門機関等と協議を行い、災害時の適切な対応や受入について検討を進めます。	③
18	H30.12	【防災(マンション)】 マンションの自主防災組織づくりについて、大規模なマンションは管理組合が機能しているが、戸数の少ないマンションは行政が組織づくりを支援していくべきである。(萱野委員)	現在50戸以上の分譲マンションを対象に、マンション単位での自主防災組織の構築を働きかけており、今後、この取組の成果をふまえて、対象マンションの拡大も検討します。	③
19	H30.12	【防災(マンション)】 町会に未加入のマンションでの出前講座の実施にあたっては、町会長・連合町会長などにも声をかけていただきたい。(田中委員)	地域等で出前講座を実施する際には、可能な範囲で民生委員をはじめ地域で活動している皆様のご紹介の機会を設けるよう、主催者と調整してまいります。	②
20	H30.12	【自転車マナー】 ・上本町の駐輪場でベストを着て管理をしている人(有償サイクルサポーター)が、駐輪禁止の場所に置かれた場合でも注意していないのが見受けられた。きちんと指導してほしい。(田中委員) ・違法駐輪の自転車を撤去することがもっとも効果がある。(東浦委員)	・有償サイクルサポーターについては適切に業務を行うよう、受託事業者に指導してまいります。 ・違法駐輪については、ご意見のとおり即時撤去の効果は高いので、実施場所・時間、回数等についてより効果が高いものとなるよう、引き続き撤去業務を担う工営所と連携して進めてまいります。	①
21	H30.12	【シティ・プロモーション】 ・区内には京都より古い歴史をもつ生國魂神社や四天王寺があるので、もっとPRしてはどうか。(松本委員) ・区内では大阪ウォークや、生國魂神社の陸渡御、四天王寺の七夕のゆうべなど、同時期に開催するものがある。主催者が個々に周知を行うのではなく、連携することでPR効果が高まるのではないか。(中野浩志委員) ・開催しているイベントが、変わり映えしないと思うので、他の区内の魅力資源を取り上げたり、例えば、小規模な自治体でも実施している映画祭を行ったりしてはどうか。(中野佳弘委員)	上町台地周遊マップのデザインを一新し、聖徳太子ゆかりの地を取り上げた構成にリニューアルし、天王寺の歴史魅力の発信に努めてまいります。また、歴史ウォークのコースに数多くある天王寺の歴史魅力スポットを取り入れるなど、区内にある歴史的・文化的資源を活用して、周辺区と連携しながら効果的なシティ・プロモーションの取組を続けてまいります。	①
22	H30.12	【シティ・プロモーション】 織田作之助は生魂小学校出身。天王寺区出身の著名な作家なのでもっとPRしてはどうか(桑原委員)	平成31年2月に開催するてんのうじ再発見セミナーで文学をテーマとして取り上げる予定です。	①

23	H30.12	<p>【シティ・プロモーション】</p> <p>熊野街道ウォークの参加者の年齢層は高いと聞く。イベントのチラシを作る際は、参加してもらいたいイベント対象者を意識したデザインにすることで、若い世代の参加を促すことができるのではないか。例えば「親子で歩こう！」など。(中野佳弘委員)</p>	<p>イベントチラシの作成に関しては、より注目を集めやすいタイトルにするなど、若い世代にも興味を持ってもらえるような工夫をしてみたいです。</p>	②
24	H30.12	<p>【シティ・プロモーション(人材育成)】</p> <p>イベントは、開催時だけの一過性ものになりがち。イベントとして楽しむだけでなく、例えば、学校と連携し、区の歴史など子ども向けの教育を充実し区内の歴史などを知ってもらうなど、定着する仕掛けが必要(玉井委員)</p>	<p>ジュニアクラブ事業では、青少年の健全育成及び将来の地域活動の担い手育成を目的として、小学校4年生以上の子どもの対象に世代間交流やボランティア活動などを実施しておりますが、近年(平成28年度以降)は年1回区内を巡り街の歴史について学ぶ活動を実施しております。今後ともいただいたご趣旨も含め、取組みを検討してまいります。</p>	①
25	H30.12	<p>【シティ・プロモーション(万博)】</p> <p>・2025年の大阪万博の際は、四天王寺などに区内の来訪者が増えることが予想される。区においても万博開催に向けた取組みを検討してはどうか。(中山委員)</p> <p>・四天王寺を建てた宮大工の金剛組は区内に本社がある。万博開催により、世界中から観光客が来るので、社寺建築を行っている金剛組をとりあげてはどうか。(中野佳弘委員)</p>	<p>2025年大阪万博に向けた観光振興については、全市的な取組とも連携しながら、今後検討してまいります。</p>	③
26	H30.12	<p>【シティ・プロモーション(地域活動協議会)】</p> <p>・真田山地域では、地域活動協議会発足時から、構成団体が参加して、真田山カーニバルを実施している。地域の団体が集まって一緒にイベントを行うことにより団体同士の理解が深まった。地域の核として“祭り”は重要。居住歴や世代、また区の歴史、情報等への知識等が異なる多様な住民が交流できるイベントを開催することで、住民同士が情報交換ができたり、相互理解を深めたりできるので、こうしたイベントを実施してはどうか。(竹田委員)</p> <p>・「9つの地域をつなぐウォークラリー事業」をきっかけに始まった生魂地域の「みのり茶会」は、子どもが茶道(地域資源)にふれるきっかけになっており、子どもと一緒に若いお母さんも参加してもらえる地域行事として定着しつつあることから、(つながりづくり)効果的だと思う。(松本委員)</p>	<p>・区内9地域中真田山地域を含む6地域では、地域活動協議会の構成団体をはじめ地域の団体が集まって一緒に地域ふれあい祭りなどのイベントを実施され、住民同士の情報交換や相互理解を深められています。他の3地域でも地域の団体が集まり、防災訓練などを実施されており、地域毎で事業内容を検討され実施されていることから、実施事業の内容は地域の自主性を尊重したいと考えます。</p> <p>・区全体の住民の交流のため、コミュニティ育成事業として、区民まつりや区民文化のつどいなども実施しており、今後ともより充実した内容になるよう工夫してまいります。</p>	⑤

## ※分類

- ①当年度(30年度)において対応 ②元年度運営方針に反映または元年度に対応予定  
 ③元年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可  
 ⑤その他